

業務部速報



No. 96

発行 25. 3. 22

JR東労組 業務部

「在来線保線部門の将来ビジョンの実現に向けた組織の見直しについて」 に関する説明申し入れ 第2回団体交渉(3/17)を開催！ No.4

申10号

15. メンテナンスGと工事戦略Gを計画推進チームに融合することで、従来から見直される業務内容を明らかにすること。

- | | |
|---|---|
| <p>【組合】</p> <ul style="list-style-type: none">○チーム一体となって一貫した業務推進体制とするとは個人ではどのような働き方になるのか。○今まで、修繕工事と検査を一気通貫で進めていたものを、改良工事にも拡大するに至った経緯は何か。○MOT2027に記載されている5本柱の技術力・やり甲斐向上では、メンテGが一気通貫するとの記載がされており、2027年度をゴールに取り組んでいる中、現場で定着できていない。この現状で2年も前倒した根拠と担務分けは、どのように考えているか。○柔軟な働き方のイメージの中の専門技術集結やプロジェクト推進など力を入れて取り組むものは増えるが従来行っている業務が疎かにならないのか。 | <p>【会社】</p> <ul style="list-style-type: none">○メンテナンス G と工事戦略 G を融合する事で、従前のメンテナンス G の社員は軌道改良工事にも関与でき、業務の幅が広がるというイメージである。○全ての軌道工事を経験できた方がいいという現場からの声である。○2027年度目標は設備全体の目標である。前倒しではなく、現状を認識した上で将来を展望し拡大した。定着できていない現場については、定着できている現場の教育方法などを参考にしてみるのも良い。○専門技術集結やプロジェクトなどは、やっていないわけではないが、今後はより一層進めやすくなる。仕事が増えるということだけでなく課題解決できる職場にする。 |
|---|---|

16. 工事統括と検査統括の役割と業務内容を明らかにすること。

- | | |
|---|--|
| <p>【組合】</p> <ul style="list-style-type: none">○会社回答に従来通りとあるが、現状の統括の役割や業務内容が変わることはないのか。○工事統括も改良工事を行うのか。 | <p>【会社】</p> <ul style="list-style-type: none">○そうだ。○イメージとしてはそうだ。また、工事全体を統括する考え方は変わらない。改良工事を経験した事の無い社員に急に改良工事を持たせるのは難しいため、工事統括や元々工事戦略Gに所属していた社員がフォローしたりする事は勿論ある。 |
|---|--|

17. 各本部・各支社で指定した分岐器の一部直轄検査等の業務を見直す内容を明らかにすること。

- | | |
|---|--|
| <p>【組合】</p> <ul style="list-style-type: none">○必要に応じてとはどういうことか。○指定した分岐器の一部直轄検査等の業務も見直す根拠は何か。 | <p>【会社】</p> <ul style="list-style-type: none">○新入社員が配属された場合や経験の無い社員が編入された場合、現在直轄で分岐器軌道変位検査を実施している社員がしばらくの期間実施しなかった事で不安に感じた場合などに実施する可能性があるという事である。○現場の社員から、既に現場で知識・経験が身に付いたという声が見直しの根拠である。 |
|---|--|

NO. 5へ続く